

入 学 試 験 問 題

前

地 球 歷 史

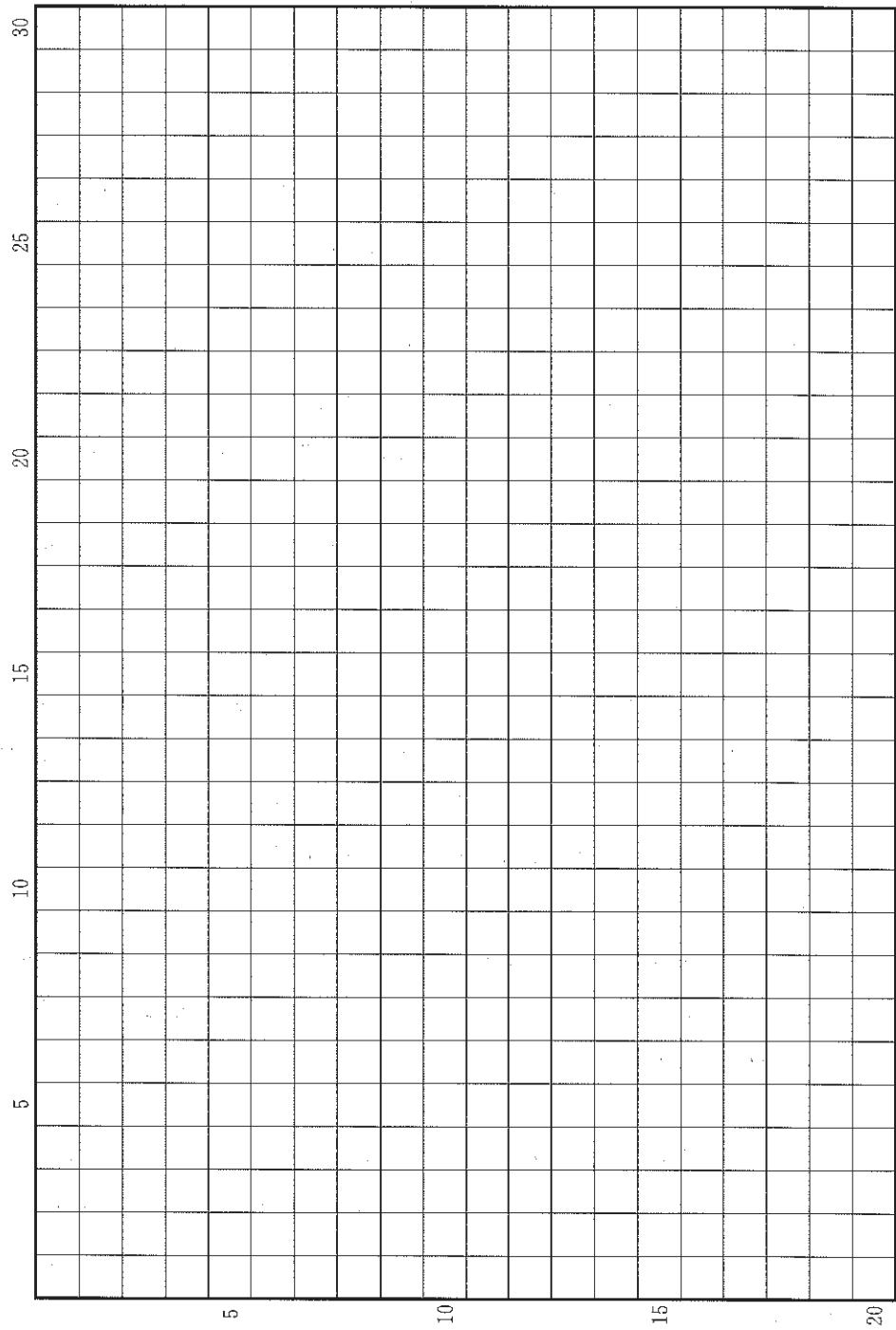
(配点 120 点)

令和 2 年 2 月 26 日 9 時 30 分—12 時

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は全部で 47 ページあります(本文は日本史 4 問 4 ~13 ページ、世界史 3 問 14~27 ページ、地理 3 問 28~47 ページ)。
落丁、乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 日本史、世界史、地理のうちから、あらかじめ届け出た 2 科目について解答しなさい。
- 4 解答には、必ず黒色鉛筆(または黒色シャープペンシル)を使用しなさい。
- 5 解答は、1 科目につき 1 枚の解答用紙を使用しなさい。
- 6 解答用紙の指定欄に、受験番号(表面 2 箇所、裏面 1 箇所)、科類、氏名を記入しなさい。指定欄以外にこれらを記入してはいけません。
- 7 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 8 解答用紙表面上方の指定された()内に、その用紙で解答する科目名を記入しなさい。
- 9 解答用紙表面の上部にある切り取り欄のうち、その用紙で解答する科目の分のみ 1 箇所をミシン目に沿って正しく切り取りなさい。
- 10 解答用紙の解答欄に、関係のない文字、記号、符号などを記入してはいけません。また、解答用紙の欄外の余白には、何も書いてはいけません。
- 11 この問題冊子の余白は、草稿用に使用してもよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 12 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
- 13 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

草稿用紙（切り離さないで用いよ。）



日本史

第1問

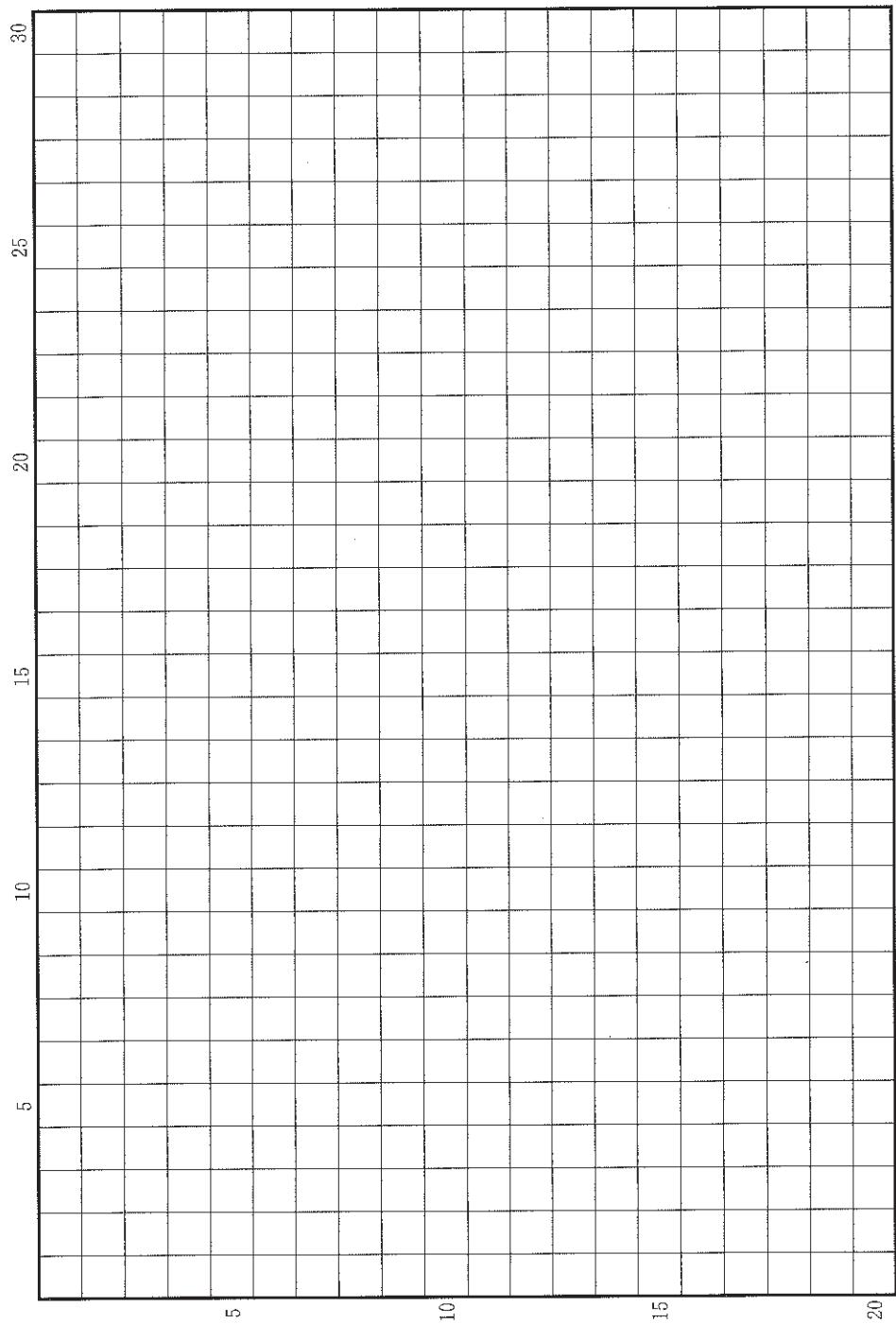
次の(1)～(5)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(イ)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

- (1) 『千字文』は6世紀前半に、初学の教科書として、書聖と称された王羲之の筆跡を集め、千字の漢字を四字句に綴ったものと言われる。習字の手本としても利用され、『古事記』によれば、百済から『論語』とともに倭国に伝えられたという。
- (2) 唐の皇帝太宗は、王羲之の書を好み、模本(複製)をたくさん作らせた。遣唐使はそれらを下賜され、持ち帰ったと推測される。
- (3) 大宝令では、中央に大学、地方に国学が置かれ、『論語』が共通の教科書とされていた。大学寮には書博士が置かれ、書学生もいた。長屋王家にも「書法模人」という書の手本を模写する人が存在したらしい。天平年間には国家事業としての写経所が設立され、多くの写経生が仏典の書写に従事していた。
- (4) 律令国家は6年に1回、戸籍を国府で3通作成した。また地方から貢納される調は、郡家で郡司らが計帳などと照合し、貢進者・品名・量などを墨書きした木簡がくくり付けられて、都に送られた。
- (5) 756年に聖武天皇の遺愛の品を東大寺大仏に奉獻した宝物目録には、王羲之の真筆や手本があったと記されている。光明皇后が王羲之の書を模写したという「樂毅論」も正倉院に伝来している。平安時代の初めに留学した空海・橘逸勢も唐代の書を通して王羲之の書法を学んだという。

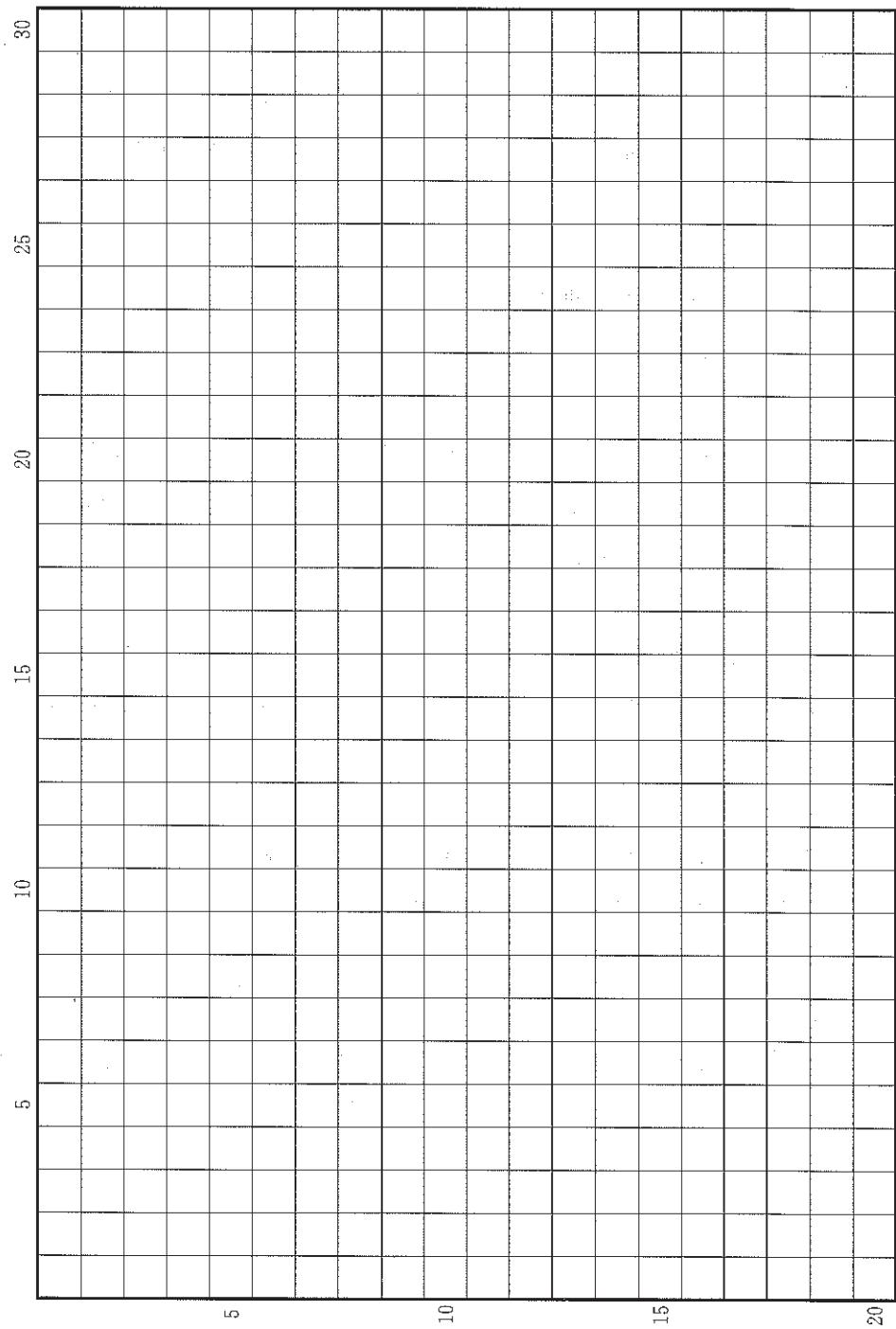
設問

- A 中央の都城や地方の官衙から出土する 8 世紀の木簡には、『千字文』や『論語』の文章の一部が多くみられる。その理由を 2 行以内で述べなさい。
- B 中国大陸から毛筆による書が日本列島に伝えられ、定着していく。その過程において、唐を中心とした東アジアの中で、律令国家や天皇家が果たした役割を 4 行以内で具体的に述べなさい。

草稿用紙（切り離さないで用いよ。）



草稿用紙（切り離さないで用いよ。）



第 2 問

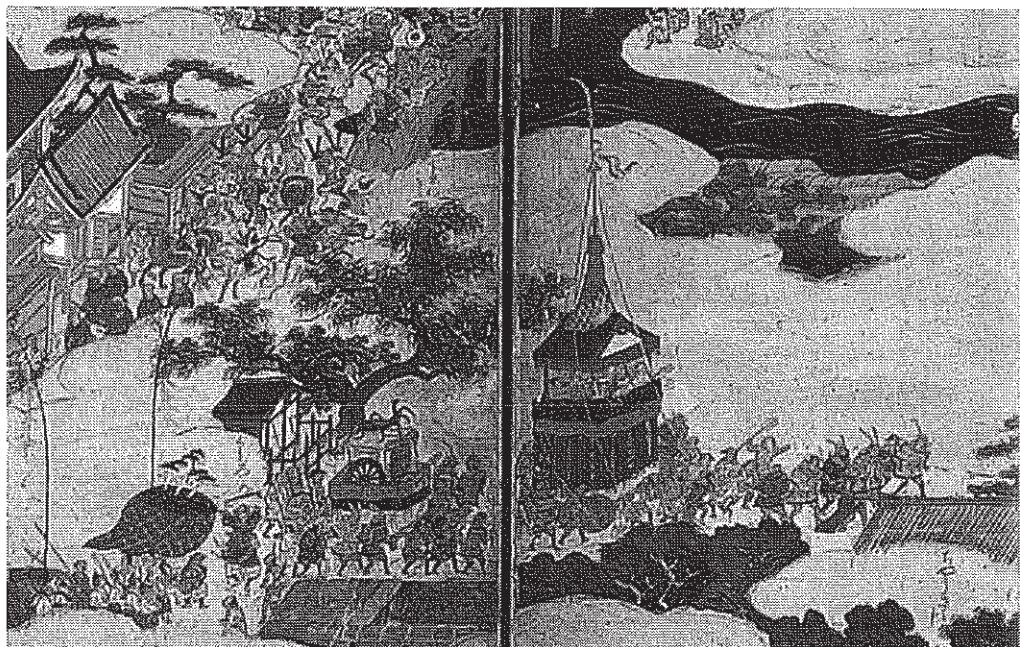
京都の夏の風物詩である祇園祭で行われる山鉾巡行^{じゅんこう}は、数十基の山鉾が京中を練り歩く華麗な行事として知られる。16世紀の山鉾巡行に関する次の(1)~(4)の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。解答は、解答用紙(口)の欄に記入しなさい。

- (1) 1533年、祇園祭を延期するよう室町幕府が命じると、下京の六十六町の月行事たちは、山鉾の巡行は行いたいと主張した。
- (2) 下京の各町では、祇園祭の山鉾を確実に用意するため、他町の者へ土地を売却することを禁じるよう幕府に求めたり、町の住人に賦課された「祇園会出錢」から「山の綱引き賃」を支出したりした。
- (3) 上杉本『洛中洛外図屏風』に描かれている山鉾巡行の場面をみると(図1)，人々に綱で引かれて長刀鉾^{なぎなたほこ}が右方向へと進み、^{とうろう} 蟠螭^(かまきり)^{やま} 山^{かさぼこ}、傘鉾があとに続いている。
- (4) 現代の京都市街図をみると(図2)，通りをはさむように町名が連なっている。そのなかには、16世紀にさかのぼる町名もみえる。

設 問

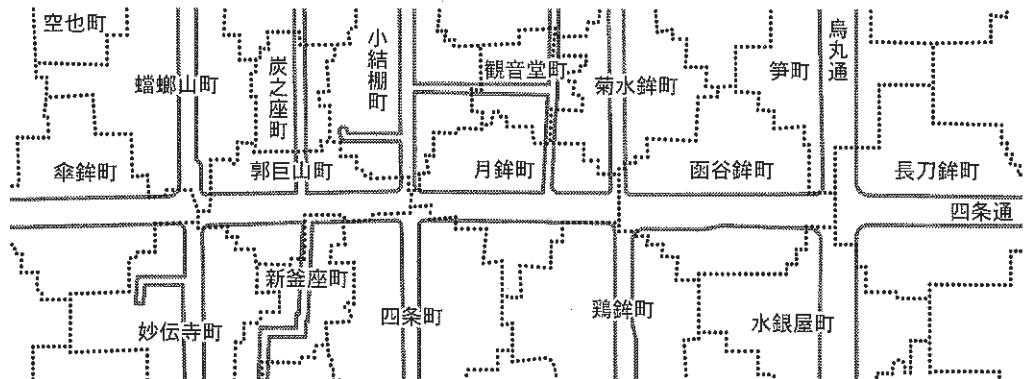
16世紀において、山鉾はどのように運営され、それは町の自治のあり方にどのように影響したのか。5行以内で述べなさい。

図 1



(『国宝 上杉本 洛中洛外図屏風』米沢市上杉博物館より)

図 2



第 3 問

次の(1)～(5)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(ハ)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

- (1) 日本では古代国家が採用した唐の暦が長く用いられていた。しぶかわはるみ 渋川春海は元の暦をもとに、明で作られた世界地図もみて、中国と日本(京都)の経度の違いを検討し、新たな暦を考えた。江戸幕府はこれを採用し、天体観測や暦作りを行う天文方を設置して、渋川春海を初代に任じた。
- (2) 朝廷は幕府の申し入れをうけて、1684年に暦を改める儀式を行い、渋川春海の新たな暦を貞享暦と命名した。幕府は翌1685年から貞享暦を全国で施行した。この手順は江戸時代を通じて変わらなかった。
- (3) 西洋天文学の基礎を記した清の書物『天經或問』は、「禁書であったが内容は有益である」と幕府が判断して、1730年に刊行が許可され、広く読まれるようになった。
- (4) 1755年から幕府が施行した宝暦暦は、公家の土御門泰邦が幕府に働きかけて作成を主導したが、1763年の日食の予測に失敗した。大坂の麻田剛立ら各地の天文学者が事前に警告した通りで、幕府は天文方に人員を補充して暦の修正に当たらせ、以後天文方の学術面での強化を進めていった。
- (5) 麻田剛立の弟子高橋至時は幕府天文方に登用され、清で編まれた西洋天文学の書物をもとに、1797年に寛政暦を作った。天文方を継いだ高橋至時の子渋川景祐は、オランダ語の天文学書の翻訳を完成し、これを活かして1842年に天保暦を作った。

A 江戸時代に暦を改めるに際して、幕府と朝廷はそれぞれどのような役割を果たしたか。両者を対比させて、2行以内で述べなさい。

B 江戸時代に暦を改める際に依拠した知識は、どのように推移したか。幕府の学問に対する政策とその影響に留意して、3行以内で述べなさい。

第 4 問

次の(1)・(2)の文章は、軍人が実践すべき道徳を論じた明治時代の史料から、一部を抜き出して現代語訳したものである。これを読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(二)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

(1) 維新以後の世の風潮の一つに「民権家風」があるが、軍人はこれに染まることを避けなくてはいけない。軍人は大元帥である天皇を戴き、あくまでも上下の序列を重んじて、命令に服従すべきである。いま政府はかつての幕府に見られた專權圧制の体制を脱し、人民の自治・自由の精神を鼓舞しようとしており、一般人民がそれに呼応するのは当然であるが、軍人は別であるべきだ。

(西周「兵家徳行」第4回、1878年5月。陸軍将校に対する講演の記録)

(2) 軍人は忠節を尽くすことを本分とすべきである。兵力の消長はそのまま国運の盛衰となることをわきまえ、世論に惑わず、政治に関わらず、ひたすら忠節を守れ。それを守れず汚名を受けることのないようにせよ。

(「軍人勅諭」1882年1月)

設 問

A (1)の主張の背景にある、当時の政府の方針と社会の情勢について、3行以内で述べなさい。

B (2)のような規律を掲げた政府の意図はどのようなものだったか。当時の国内政治の状況に即しながら、3行以内で述べなさい。

草 稿 用 紙 (切り離さないで用いよ。)

